

「肺気腫（COPD）になって考えたこと」 59歳・男性

私は59歳の男性です。在宅で酸素療法と人工呼吸器を併用して、使用するようになり、今年で3年になります。

私は、最初にタバコを吸い始めたのは、20歳を過ぎてからです。吸い始めた理由は特になく、なんとなく吸い始めてしまいました。仕事が営業だったため、車の中や商談中、吸いたいときに吸っていました。次第に本数が増えていきました。

42歳を過ぎた頃から、息切れが始まりました。だんだんすぐ座り込むことが多くなり、仕事に行くときの準備をするにも、1つ1つの動作がきつくて、肩で息をするようになりました。息切れの感じを例えるなら、「やっと泳ぎきって、水中から顔を上げたとき、もう一度頭を押さえつけられたような感じの苦しみ」がありました。

また、せきをすればタンが出て、せき込みがひどいと、腹筋がつり、とても耐えられないときもありました。

病院で診察を受けた結果、「肺気腫（COPD）です。」と言われました。聞きなれない病名だったので、そのときはさほど深刻には考えませんでした。その場で先生に「完治するまでどのくらいかかりますか？」と尋ねました。先生は「進行は止まるが、完治はしませんよ。もし、進行して悪化すれば酸素ボンベが必要になるでしょう。」と言われました。大変なショックを受けました。

原因がタバコということを知っても、それでもすぐにはやめられなかったのですが、47歳のとき、夜中にせき込みが激しく、今までに感じたことのない鈍痛があったので、意を決して、きっぱりと、このときからタバコをやめました。

しかし、この頃から、毎年のように入院するようになりました。年に2回以上入院することもしばしばでした。そして、現在は在宅で、酸素と人工呼吸器の治療を受けています。

働き盛りの40歳半ばから、病気になり、なんとなく吸い始めたタバコが命取りになったことを考えると、くやしく、タバコの怖さ・恐ろしさをつくづく身にしみています。

皆さんには、タバコによって病気がおこり、人生設計が狂うことを真剣に考えてもらいたいです。そして、タバコを吸っている人はきっぱりと禁煙をし、そして興味本位で、なんとなくタバコを吸い始めようとする若者たちがいなくなれば、と願っています。

（平成21年4月24日ご寄稿いただきました）

肺気腫（COPD）についての情報は以下をご覧ください

<http://www.copd-jp.com/>



くまもと
禁煙推進
フォーラム

くまもと禁煙推進フォーラム

くまもと禁煙推進フォーラムは、Smart Breathと、人々の健康を応援します。